

特別支援教育だより

## ほほ笑み便り

NO. 6



平成29年 1月31日

杉並区立八成小学校

校内委員会

## 学習環境を整える

「子どもが家で勉強に集中しなくて困っています。すぐに飽きちゃって…。」

そんな悩みを抱えている保護者の方はいませんか？ひょっとしたら、ちょっとした工夫でお子さんの集中力が高まるかもしれません。

小学生が集中して机上学習に取り組める時間は、個人差、学年による違いはありますが、そこまで長くありません。しかし、環境面や興味・関心のモチベーションによっては、集中できる時間ももっと延ばせる可能性があります。

家庭でもすぐにできる取組について考えてみましょう。

## 環境の調整

- ・椅子を、座り心地の良い高さに調整する。
- ・机上の整理をする（必要なものだけを出す）。
- ・おもちゃや漫画などは、視界に入らないところに片付ける。
- ・静かな環境作りをする（周囲も配慮をする）。

これなら僕も  
集中できるよ！

やることが分かるか  
ら、安心して取り組  
めるよ！

## ルールの確認

- ・取り組む時間、範囲の確認をする。（見通しをもたせる）
- ・毎日同じ時間帯に取り組む。
- ・学習中は、学習用具以外のものに触らないように約束する。

## 興味・関心を高める

- ・取り組み方を明確にする。
- ・難易度を調整する。（難しすぎず、簡単すぎず）
- ・学習量を調整する。（多すぎない）
- ・分からぬ問題は、すぐに相談できる環境を作る。

# 「分からぬ！」って言えたらしいね。

自分が伝えたいことが相手にはどれくらい伝わっているのでしょうか。“ゆっくり話せば”“詳しく説明すれば”“繰り返し話をすれば”など、様々な手段を使って、相手に伝えようとします。がんばって伝えようとすればするほど、伝わらないことに対してもうなんてことはありませんか？

ここで、あることについて説明している文書を紹介します。とっても身近なことについて説明しています。

手続きはまったく簡単である。まず、物をいくつかの山に分ける。もちろん、全体量によっては、一山でもよい。設備がないためどこかほかの場所に行かないといけないとしたら、次の段階としてどこかほかの場所へ行くことになる。そうでなければ、あなたの準備はかなり整ったことになる。大事なのは一度にあまり多くやらないことである。つまり、一度に多くやりすぎるより、むしろ少なすぎるくらいの方がよい。この注意の必要性はすぐには分からぬが、もし守らないと簡単にやっかいなことになってしまい、お金もかかることになってしまう。最初にこの作業はまったく複雑に見えるかもしれない。しかし、これはまさに人生のもう一つの面となるであろう。近い将来にこの作業の必要性がなくなると予想することは困難で、決して誰もそれについて予言することはできない。手続きがすべて完了すると、物をまたいくつかの山に分けて整理する。次にそれを決まった場所にしまう。作業の終わった物は再び使用され、そしてまた同じサイクルが繰り返される。やっかいなことだが、とにかくそ (Bransford and Johnson, 1972)

さて、これはいったい何について説明しているのでしょうか。分からぬ時は、詳しく書いてあるのでもう一度読んでみてください。私は何度も読んでも意味が分からず、もやもやしていました。

この文章は、心理学のスキーマの例として挙げられるもので、洗濯機についての説明が書かれています。知識や情報から一般的な物へつなぎ合わせるためには、知識や情報の構造を把握して理解しているとされています。構造が理解できない段階で、多量の情報を伝えることだけでは理解へつながらないのです。

一文一文の意味が分かったとしても、全体をつなぎ合わせようとすると理解ができないということは実はよくあることです。限られた情報をつなぎ合わせて全体をイメージすることが得意な人もいます。しかし、知識や経験の少ない子どもにとってはイメージできないことがあります。たとえ“ゆっくり・詳しく・繰り返し”話したとしても、分からぬことはあるのです。

子どもたちにとって（大人にとっても）、分からなければいけないということは、とても大きなプレッシャーになってしまっていると感じます。特に、周りが分かっていて当然という雰囲気になってしまえばなおさらです。だから、分かったふりまでしてしまうことすらあります。

だから、分からぬことがあるという前提で、子どもたちのリアクションを見る必要があります。相手の「分からぬ」という一言に対し、「しっかり聞きなさい」と注意するだけでなく、分かる言葉で語り直す必要があります。本人は聞いていると思っているのにさらに聞くことを求められてもどうしていいか分からなくなってしまいます。そして、「分からぬ」と言えなくなってしまったり、分かったふりをしてしまったりするようになってしまいます。

分からなければ「分からぬ！」って伝えることができるような場と関係を作っていくといふいます。